
視愛

反自律(= ` ´ =)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視愛

【Nコード】

N3215Z

【作者名】

反自律（＝、・＝）

【あらすじ】

単純で滑稽で醜悪な、出逢いと別れ。

文字数的には短編だが、あえて連載形式でアップ。
完結まで毎日正午更新（に、予約しておく）。

【なれそめ】

基が背中に強い視線を感じたのは、今なにも泣き出しそうな天候のある風の強い朝、橋の上でスケッチ・ブックを広げていた時のことだった。紙の上に鉛筆を走らせる作業に没頭しはじめると、基は周囲の状況にわずかな関心さえ抱かなくなる性癖がある。この時も、件の視線の主に、気づかぬ間に背後をとられていた。ひときわ強い風が突発的に吹き、危うく掠われそうになったスケッチ・ブックをとっさに引き戻した時、誰かが背後から自分を覗きこんでいる気配を、はじめて悟ったのだ。

野外でスケッチをしていると、もの珍しいからか、無遠慮に書きかけの絵を覗き込む人物も多い。そのような人種はたいいてい、じろじろと「描きかけの絵」そのものを見詰めるのが常なのだが、現在基の背後をとっている人物はなにが目的なのか、スケッチ・ブックではなく、基自身の背中に視線を注いでいる。

まるで、絵そのものよりも、基自身がもの珍しい、とてもいうように。

たしかに、夜明け前後の、普通の人々なら大半が起きてもない時刻に、吹きさらしの橋の上で、しかも、美しい風景などではなく、刻々とうつろう曇天の雲の陰影を必死になって紙上に再現しようとする自分の姿は珍しく、あるいはまた、滑稽でもあるのだろう。

だが、風が強い早朝、それも風を遮るものがない、吹きさらしの橋の上で五分以上もの間、飽きもせず眺め続けるほどには、珍しい行為をしているつもりもない。

基は、見知らぬ人物の不躰な視線を背中に浴びながら、スケッチ・ブックの上に2Bの鉛筆を走らせる。まるで、その視線から、不可解な圧力でも受けているかのように。

必死になって紙の上に鉛筆を滑らせていているうちに、基の意識は、ふう、っと、遠くなる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3215z/>

視愛

2011年12月11日12時46分発行